

「少人数学級における思考力・判断力・表現力の育成」

～主体的・対話的で深い学びを視点とした授業の工夫と改善を通して～

各教科等の学習過程において、主体的・対話的で深い学びを視点とした授業の工夫と改善を図っていくことで、子供たちの主体性と思考力・表現力・判断力等を育むことを目指す。

I 研究の内容

1 授業づくり

(1) 児童の実態把握, 学力検査の実施と分析

(2) 学習会

ア デジタル教科書の活用 神宮司 剛教諭

イ タブレット, edutab (タブレット型端末を使った協調学習システム) の基本 廣瀬きよ美教諭

ウ 塩山北小合同学習会

・ edulog (授業記録を共有する edutab box の拡張機能の1つ) の使い方 神宮司 剛教諭

・ タブレットアプリ【CS】(CamScanner)の活用法 大島めぐみ教諭

エ 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業の工夫

～授業づくり資料編～ 指導助言 峡東梨教育事務所 中村英彦指導主事

オ 全国学力・学習状況調査と山梨県学力把握調査を踏まえた授業改善に向けて

小田切武教頭

カ 研究会還流報告

・ 主体的・対話的で深い学び推進事業日下部小学校の研究会から 飯田 憲政教諭
廣瀬きよ美教諭

・ 甲州市校長会資料から「各教科の見方・考え方と教科等横断的資質能力の育成,
「アクティブラーニング『深い学び』実践の手引き」 鶴田 一路校長

・ アクティブラーニングを成功させる学級集団づくり等」 小田切 武教頭

キ「小学校プログラミング教育について」 神宮司 剛教諭

ク 第6学年プログラミング授業「Scratchで多角形を描く」

指導者 山梨県立産業短期大学 安本 岳志先生

T2 小石澤淳子教諭 T3 神宮司剛教諭

ケ 第3学年教育師範授業「われた花びん」

講師 山梨大学大学院准教授 田中 一弘先生

(3) 提案授業

第2学年算数科「ひっ算のしかたを考えよう」 大島めぐみ教諭

第4学年算数科「広さを調べよう」 保坂 恵教諭

(4) 一人一実践

第1学年国語科「かたかなのかたち」 廣瀬きよ美教諭

第5学年社会科工業生産を支える人々「工業の今と未来」 横内 拓海教諭

第5学年道徳科「海を渡るざるそば」 神宮司 剛教諭

第6学年算数科 重さ「比例をくわしく調べよう」 小石澤淳子教諭

第4学年理科「自然の中の水のすがた」

飯田 憲政教諭

(5) 複数校(3校)での同期型CSCL(computer supported collavative learning)授業の実施

第1学年国語科「きいてしらせよう ともだちにきいてみよう」廣瀬きよ美教諭

第1・2学年特別活動「好きな遊び調べ～1番人気のあるあそびはなにかな～」

T1 廣瀬きよ美教諭 T2 大島めぐみ教諭

(6) 学校間ネットワークの交流活動

社会科見学や校外学習等の事前学習会、学年間交流などに活用

2 学級集団づくり

(1) Q-U調査の実施(2回)と分析。それを生かした学級集団づくりの取組

(2) 「朝の基礎学習」の取組(リズムかん字/漢字100問, 計算練習, 名文, 音読)

(3) 家庭学習と「神小塾」の取組

3 「ふるさと学習」への取組

(1) 「ふるさと学習」の実践

ア 地域資源を学校教育に活用する「ふるさと学習」への取組(全学年)

イ 学んだことを成果として発信する活動

・保護者や地域を対象にICTを活用した「ふるさと学習発表会」(全学年)

・公民館主催「神金シンポジウム」で地域の方にむけた発表活動(4年・5年)

・地域行事「歩け歩け大会」での発表活動(3年)

・地域の神部神社の新嘗祭にあわせた催し物「農民ダイナマイト」への参加(6年)

・「ふるさと山梨/郷土学習コンクール」への応募

ウ 全校の学校林活動

II 成果と課題

1 成果

○研究テーマに迫るために、今求められている主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践を全員が行うことができた。全員が授業を見合うことで、学び合いができた。

○喫緊の課題について、多くの指導助言をいただく機会を設け学習することができた。模擬授業や示範授業では、実際に授業を受ける側の立場と指導する立場双方を体験しながら学習することができたことは、大きい成果といえる。学んだことは授業の工夫や改善に生かされ、職員や児童全体のICTの活用についても、レベルの向上を図ることにつながった。

○TV会議システムを使って通常の授業のような形態での授業実践ができた。これにより、通常より多くの意見や考え方に触れ、交流することができた。

○ふるさとを題材にした学習発表の取組は、児童が課題やテーマを持ち、積極的に地域に関わり、調べたことをICTを活用しながら分かりやすくまとめて発表する過程が、深い学びといえる実践となった。

2 課題

▲「深い学び」については、まだ研究が十分とはいえない。引き続き実践と体系的な研究が求められる。

▲複式学級の学年については、人員や時間割の関係で他校と交流授業を仕組むことが難しい。

III 成果物

1 ICT機器を活用した授業実践資料 2 ふるさと学習の実践資料

3 TV会議システムを活用した授業の指導案, 実践資料 (研究主任 廣瀬きよ美)